奥多摩 平成まとい会を結成

防災組織を支援 町づくりにも意欲

一一月一九日、奥多摩町町立福祉会館で「奥多摩町平成まとい会」（福島冨夫会長）の設立総会が開かれた。過疎化の進む同町において、自由防災組織への側面からの支援をその役割として設立された同会は、今年五月一二、一八日と初の設立準備会を催してから半年あまりで設立にこぎつけ、一〇年、二〇年後の町内の防災体制を堅固にしてゆくための補佐集団として、また町づくりに対しても積極的な姿勢をみせており、新しい、壮年有志による活性集団として今後の動きが注目される。

福冨会長（右端）ら、まとい会役員の面々

奥多摩町は新規住民が微増ながら続いているものの、一〇月一日現在で人口八、八一四人、この一年はおよそ五〇人の出生について死亡者が一五〇人という町の人口推移で過疎化の進行とともに防災組織参加者の確保が急務となっている。

町では現在、四五〇人の団員の定員確保にも困難になっているのが現状。こうした背景のもと、元消防団員有志たちにより防災組織への援助組織設立の動きが起こり、五月から一七に及ぶ会合を経て、この日の設立となった。設立時会員は五六人。総会では設立に至るまでの以上のような経過報告があり、原島重朗元奥多摩町消防団長を議長に選出、会則の承認、役員の選出、事業計画案、収支予算案を満場一致で採択した。

このあと新役員代表として会長に選出された福島冨夫氏が挨拶に立ち、「この、奥多摩町平成まとい会の設立は、消防組織への応援と共に町づくりへのお手伝いをしたいというのも特徴。奥多摩町でも独身者の増加、出産率の低下、高齢化が進んでおり、このことが影響して、一〇年後には相当に困難な事態が予想される。消防精神とは、町を愛する気持ちという根本理念を体現すべく、未来に備える体制づくりを推進したい」と述べた。

このあと、顧問である佐久間藤一町長を代理して大場久助役が挨拶、相談役を代表して原島重朗氏は「本会を〝まとめ〟会と解釈し、団への邪魔はせず、物心両面の支援を心がけたい」と話した。

後半は懇親会に移り、来賓として開式時より出席していた石川要三代議士は「今の日本は繁栄の中に数々の憂いを抱えている。その中のひとつに、若者が汚ないものや、骨の折れる活動を遠ざける傾向にある。トビ職や老人介護など、大事なのにイメージが悪いものを嫌がっている。さて、消防にも若者が遠ざかったら一体どうなるか……奥多摩平成まとい会の結成は、こんな状況下、まことに意義がある」と述べた。

このあと須藤青梅警察署奥多摩派出所長、森田町議会議長、岡宏奥多摩消防署長らが次々祝辞を述べた。

奥多摩町平成まとい会の役員は次の通り。

福島冨夫（会長）中西貞男（副会長）清水俊夫（同）杉山秀雄（同）柴田安實（理事）川久保典彦（同）杉山英男（同）大野利明（同）増田昭治（同）河村昉可（同）原島誠治（同）黒沢義智（監事）木村勤（同）

相談役として大場久、新和雄、原島重朗、小峰浩成、沢本泰臣、原島淳三、石田光正、岡宏の各氏（敬称略）

桔梗の会」に芸術文化奨励賞

15日市長室で授与式

永年の実績評価受く

平成元年度の青梅市芸術文化奨励賞にリコーダ演奏サークル「桔梗の会」が選ばれ、一一月一五日、青梅市役所市長室で記念像と表彰状の授与式があった。

「桔梗の会」は昭和五三年六月に青梅三中の諸岡忠教諭の指導で発足した。現在、メンバーは一四人。平均年齢四四歳の主婦ばかりで構成されているサークル。

この春、文化庁・都教育委員会後援による第一〇回全日本リコーダーコンテストに初参加して銀賞を受賞。昨年の第一七回リコーダーコンテスト東京大会では金賞を受賞している。

式では田辺市長が「平和な時代がつづく中、一人ひとりが自らの教養を高めることが大事。貴グループが、都や全日本の大会で優秀な成績を収めたことは市にとって大きな誇り」と述べた。

これを受けて謝辞を諸岡さ